

26年4月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日～ 26年4月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は 8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/4月	5月	6月
伐採動向	スギ	25.0	16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	25.0	25.0
	カラマツ	16.7	16.7	33.3
	エゾ・トド	75.0	25.0	50.0
出荷・販売動向	スギ	0.0	33.3	16.7
	ヒノキ	12.5	25.0	25.0
	カラマツ	16.7	33.3	33.3
	エゾ・トド	75.0	25.0	50.0
手持立木在庫動向	スギ	25.0	37.5	37.5
	ヒノキ	50.0	50.0	50.0
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0

スギ、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドの伐採はいずれも増加傾向で推移。

スギ、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドの出荷・販売はいずれも増加傾向で推移。

スギ、ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドの手持立木在庫はいずれも減少傾向で推移。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・トドマツ、カラマツとも間伐・主伐を問わず伐採は積極的に行われている。当社はトドマツ主体に素材生産し、カラマツはやっていないが地域としては伐採増加傾向。

・スギ及びヒノキの伐採・出材は新年度発注がある。

・スギ、カラマツは原木不足続く、作業員の不足続く。

・スギの間伐は、翌々月には梅雨の関係で伐採控える。

・スギ及びヒノキは間伐中心に伐採。

・トドマツの間伐は4月は休息、5月再開。トドマツ一般材需要あるが休止期間で出材減少、5月からは増、バイオマス需要で夏辺りから増加。カラマツは立木処分少なく動き弱い。

(出材・販売動向)

・トドマツ、カラマツの工場は予定より在庫少なく、需要増加している。パルプ原料材も地元製紙工場の積極的購入もあり荷動きはよいが、原木運搬車足りず運びきれない状況。

・並材が不足。

・梅雨前に少しでも多く出材したい。

・スギ及びヒノキは森林組合の委託中心に作業。

(手持ち立木在庫)

・現在、手持のトドマツ立木を伐採しており、立木在庫は減少。今後、立木公売で購入予定。

・スギ及びヒノキについては手持ち立木在庫は無い。

・カラマツ立木不足。

・トドマツは請負主体で、手持ち立木に手つかず、カラマツは手持ち少ない。